



令和4年5月13日

各位

会社名 大黒屋ホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 小川 浩平
 (コード番号:6993 東証スタンダード市場)
 問合せ先 財務経理部長 堀内 治芳
 (TEL 03-6451-4300)

令和4年3月期通期連結業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

令和4年2月10日に公表しました令和4年3月期(令和3年4月1日～令和4年3月31日)の通期連結予想値と本日公表の実績値とにおいて差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 令和4年3月期通期連結業績予想数値と実績値との差異について

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益	包括利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭	百万円
前回発表予想 (A)	17,777	105	△94	△175	△1.49	△155
今回実績値 (B)	17,381	63	△98	△292	△2.50	△294
増減額 (B-A)	△396	△42	△4	△117	—	△139
増減率 (%)	△2.2%	△40.0%	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (令和3年3月期)	12,606	△352	△712	△716	△6.13	△772

2. 差異の理由

令和4年3月期の通期連結業績につきましては、当社根幹会社である株式会社大黒屋において、第4四半期におけるまん延防止下にあっても前期対比大幅に売上を伸ばしましたが、感染再拡大に伴うコロナロスの影響が当初想定より大きく反映された為、予想値を下回る結果となりました。

営業利益及び経常利益の各収益指標におきましても、売上高の業績が予想値に対して下振れした事で夫々業績予想値を下回る数値となりました。

また、親会社株主に帰属する当期純利益につきましてはその乖離は、予想値の策定において①法人税等について前期業績の悪化で課税所得が発生しなかった事に基づき法人税等の金額を少なく見積もった事、②法人税等調整額について前期において繰越欠損金に係る繰延税金資産の計上額が大きかったのですが、当期は課税所得の発生に伴い繰越欠損金を使い切った事により繰延税金資産の金額が取り崩され減少し、併せて調整額が利益を減少するであろう事を考慮にいれなかった事に起因するものです。係る状況を踏まえ、今後は事前に税の専門家等を含め予想値のロジックを固めていく所存です。

なお、上記の通り前期実績対比では、売上高及び営業利益は増収増益、経常利益他各収益指標は大幅な改善となりました。

以上